

2020・1・25|土| → 1・26|日|

自然体験活動の トランスフォーマティブ チェンジ

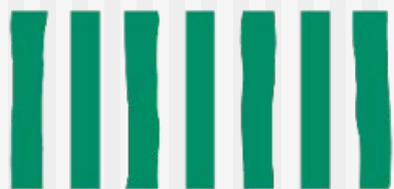
あなたがつくるこれからの
「新しい自然観察会」

第9回
自然観察指導員全国大会
2020 大阪

第9回 自然観察指導員全国大会・2020大阪
主催 (公財) 日本自然保護協会

2030年の社会変化に 自然保護教育はどう向き合うの？

日本自然保護協会 高川 晋一



日本自然
保護協会

自然のちからで、
明日をひらく。

トランスフォーマティブ チェンジって??

【トランスフォーマティブ・チェンジ】

国連及び国際自然保護連合が提唱している合言葉。「2020年までに生物多様性の損失を止める」という自然保護の国際的な目標が達成できないことへの危機感から、社会全体として自然保護への取り組み方を劇的に変化させていく必要がある、というメッセージが込められている

ここで質問です

- ① 子どもの自然体験は増えているか？お金持ち家庭は？
- ② 人口減少。若手環境教育者は20年でどれくらい減少？
- ③ 今の時代だからこそそのチャンスとは？

日本の環境教育の歴史ダイジェスト

■ 自然保護教育の黎明期（1950～60年代）

- 自然保護の国民運動の盛り上がり
- 1957年 **日本自然保護協会（NACS-J）** が「**自然保護教育に関する要望書**」を政府・国会に提出
- 各地で自然観察会が始まる

■ 導入期（1970～80年代）

- 1974年 自然保護憲章の制定
- 1978年「**NACS-J自然観察指導員**」の制度誕生
- 1987年 第1回清里フォーラム開催
- 1988年 環境省 環境教育指針の発表

■ 発展期（1990年代～）

- 「環境教育」という言葉が知られるようになり、様々な団体、人材育成事業、政策ができた

40周年をむかえた 自然観察指導員

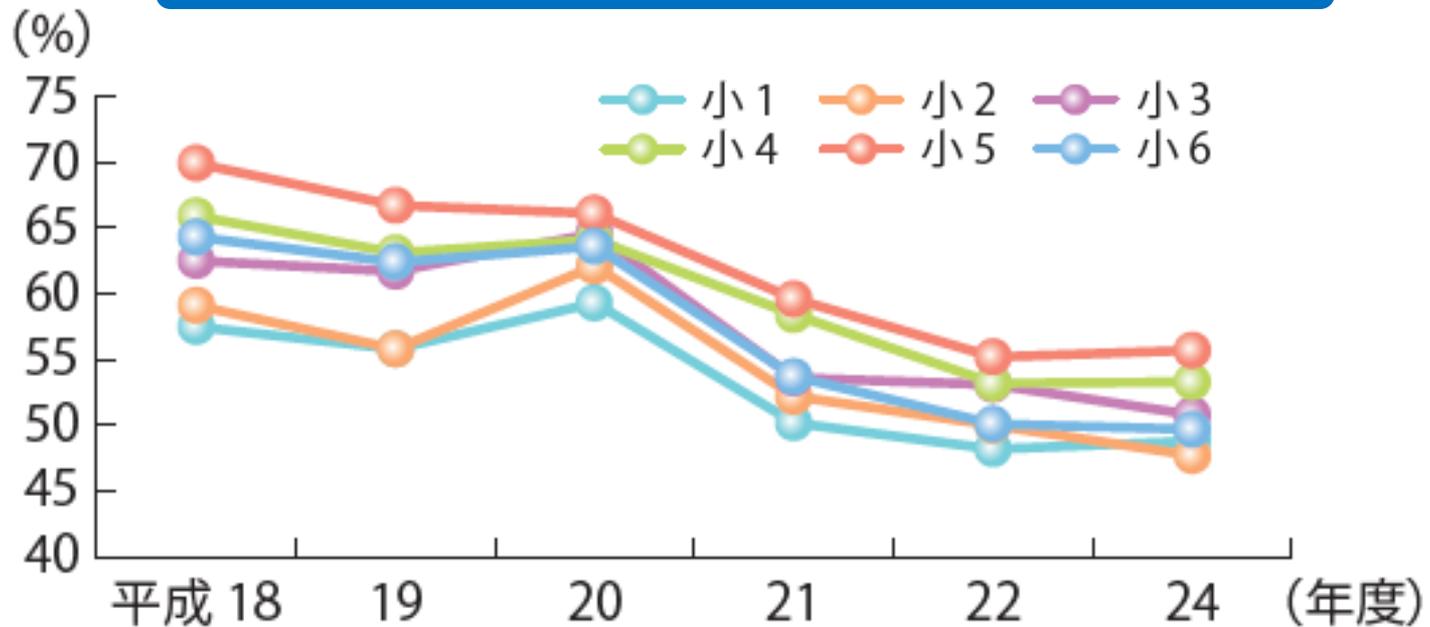


40年間の活動の成果

- 全国に3万人の指導員を養成
- 「自然観察」を普通の言葉にできた！
 - 全国の指導員の6割が観察会を実施
 - 全国で年130万人に自然観察の場を提供
- 自然保護の仕組みや世論形成のきっかけに
 - 林野庁緑の回廊、海上の森万博計画の変更、球磨川のダム撤去・・・
- 個人を越えた団体活動
 - 県全域での外来種調査、6万人の小学生への観察会プログラム、世界遺産の保全、・・・

子どもたちの自然体験の低下が続いている

学校以外での自然体験活動への参加率



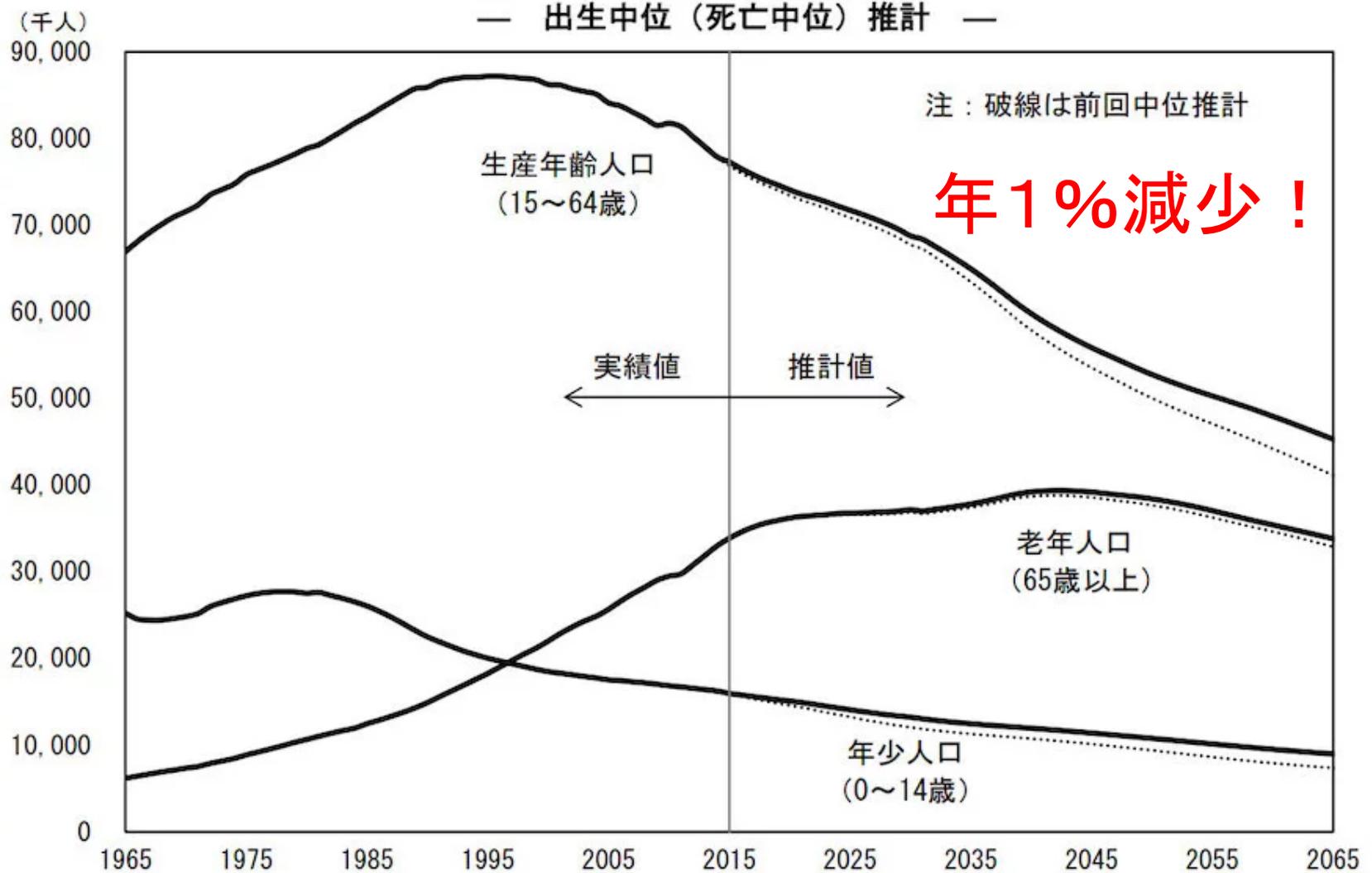
出典:国立青少年教育機構
「青少年の体験活動等に関する実態調査」

指導員養成計画2030年の策定について

- 10年ごとの計画見直し
- 自然観察指導員の本来の価値を改めて発揮すべく、新計画を検討中
 - これまでの指導員活動の振り返り
 - 理想的な指導員活動の整理
 - 社会状況の変化・予測
 - 2030ビジョンおよび目標の策定
 - 2030計画骨子の策定

私たちが向きあう 2030年の社会は？

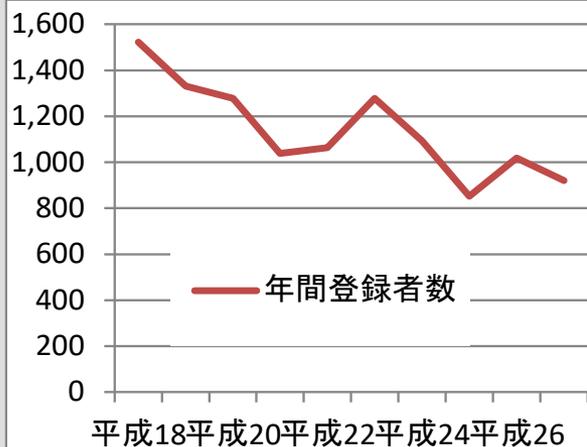
最も大きな変化：生産年齢人口の減少



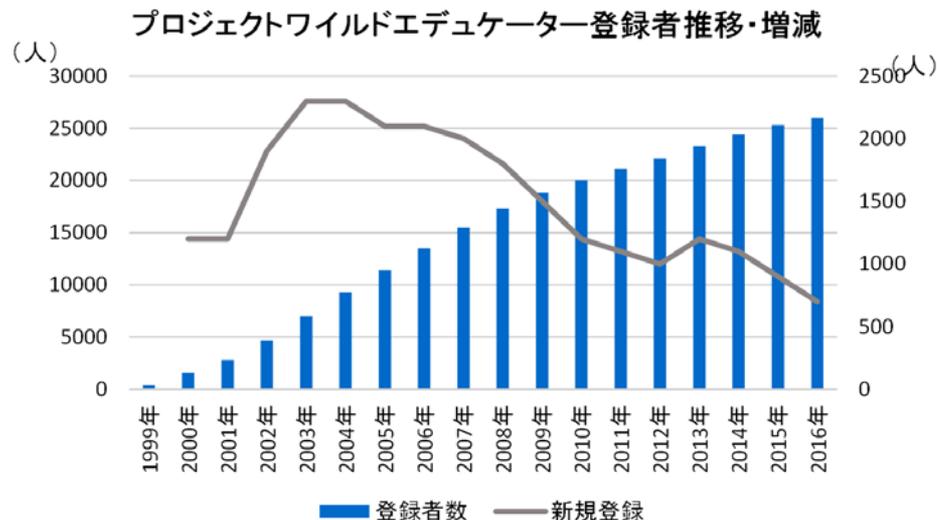
出典：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の将来推計人口（平成29年推計）」

ボランティアによる活動の限界??

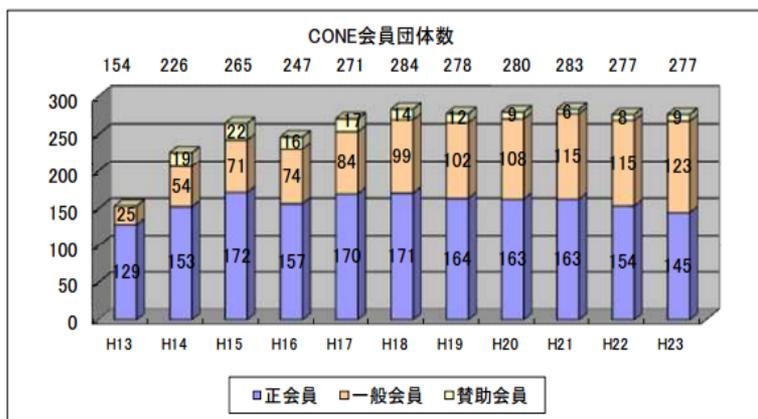
ネイチャーゲーム



プロジェクトワイルド



CONE

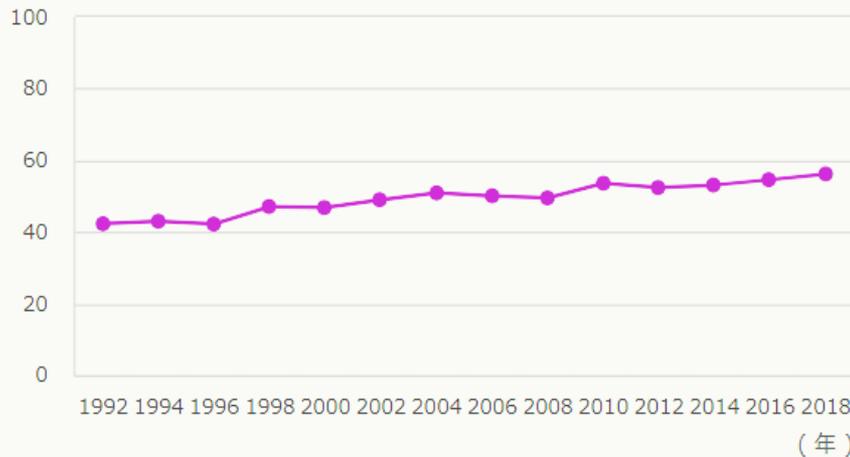


森林ボランティア



自然体験・環境意識の状況

環境保護商品は
高価格なら買わない

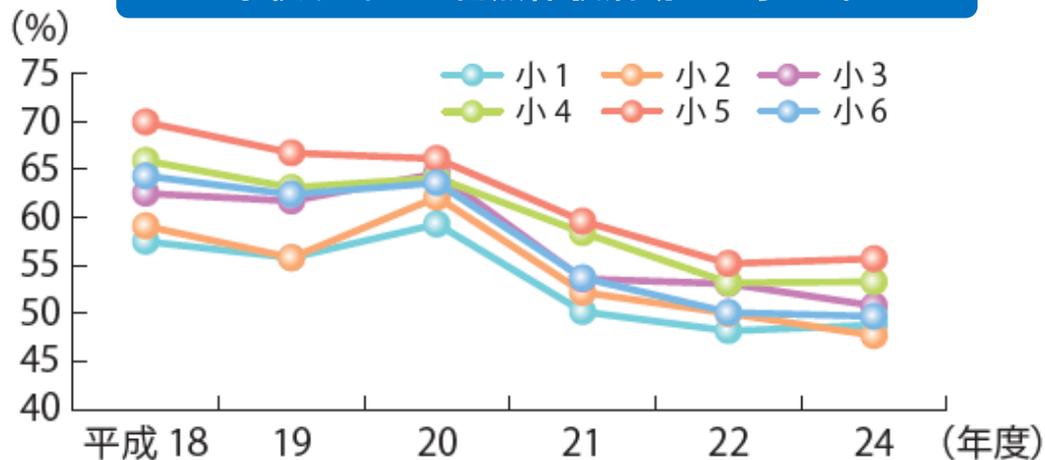


環境保護のことを
考えていない&実行無し



自然体験の低下と教育格差のスパイラル

学校以外での自然体験活動への参加率

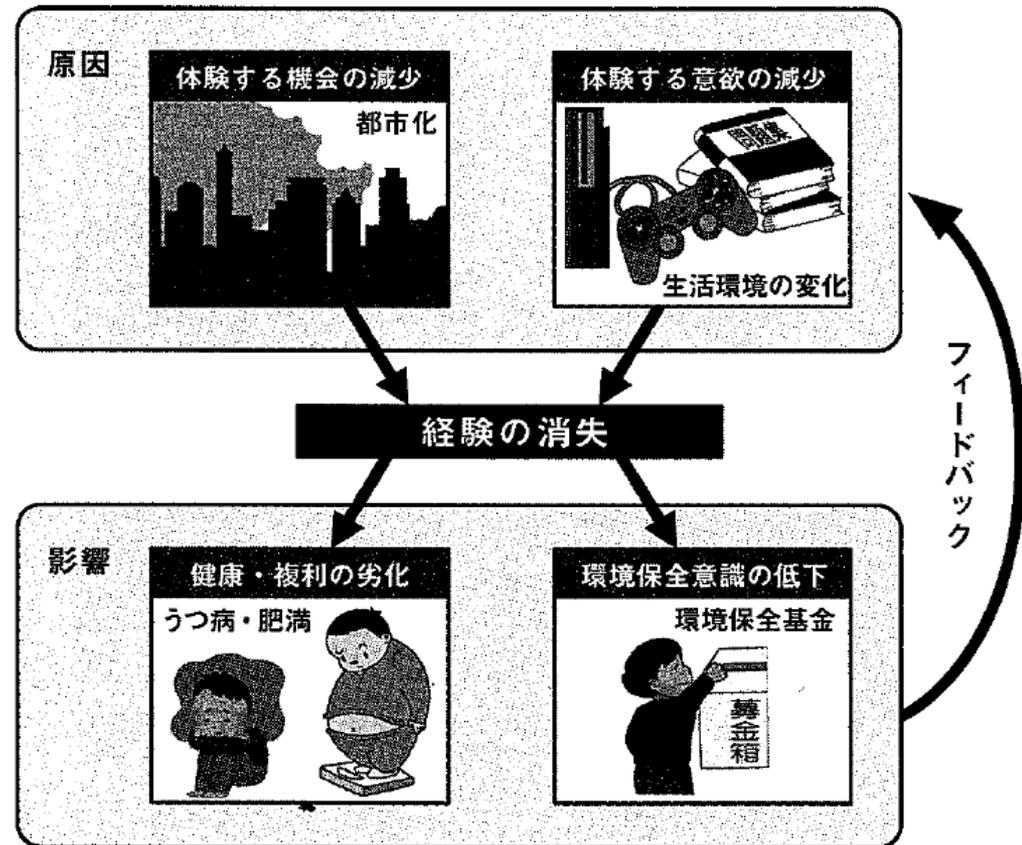
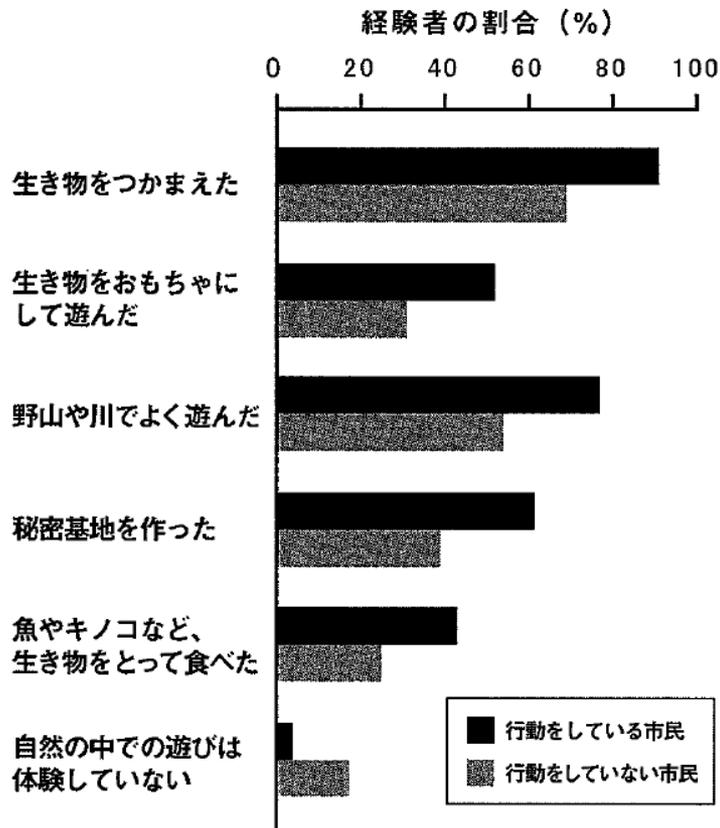


	多い	← 自然体験	→	少ない	
200万未満	8.4	29.2	22.5	28.2	11.8
~400万	10.8	24.3	27.5	28.9	8.5
~600万	12.1	27.6	25.4	28.0	7.0
~800万	13.3	28.3	24.2	26.2	8.0
~1000万	14.4	30.7	25.4	21.9	7.5
~1200万	15.6	30.5	24.2	24.6	5.1
1200万以上	15.7	29.9	28.8	19.4	6.2

■ 多い ■ やや多い □ ふつう □ やや少ない □ 少ない

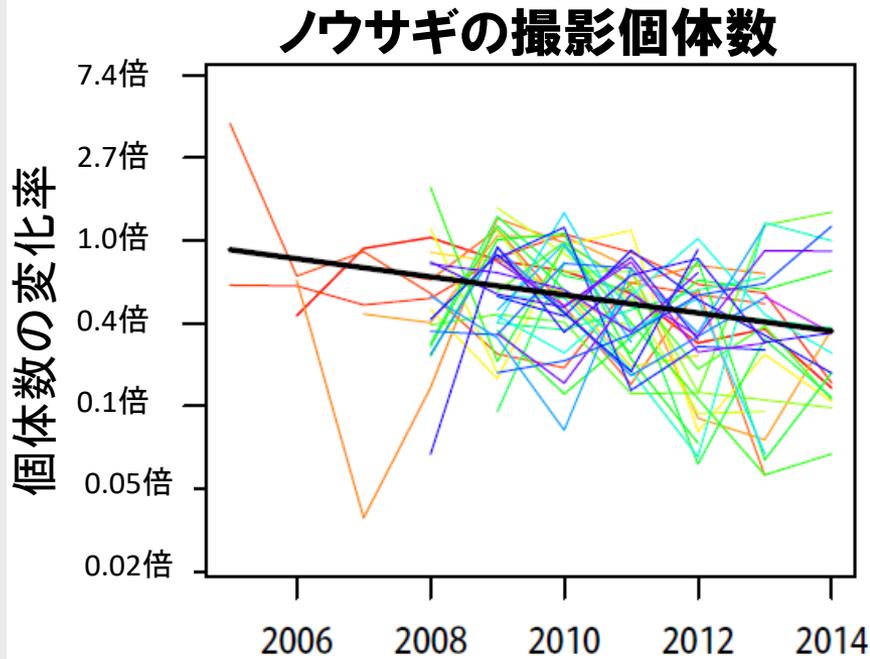


「自然経験の喪失」による負のスパイラル



- 里山の活動活動を実施している方は、幼少期の自然体験が豊か
- 自然体験の消失は、意識低下や政策不足、さらなる自然の喪失を招く？

身近な自然環境の危機と「地域絶滅」



- 全国調査の結果、里山の生き物の衰退が続いていることが明らかに
 - ノウサギ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、アカガエル、ウグイス、ヒヨドリ、メジロ、オオムラサキ、など

身近な自然環境の将来予測(2030年まで)

■ 防災インフラ・再エネによる開発

- 太陽光発電 約35×35km²
- 風力発電1200基 (4割が洋上風力)

■ 里山

- 農地の管理放棄進行 (全農地の1/20) により、里山の生き物の地域絶滅はさらに深刻に。

■ 都市部

- 過去の開発による緑地分断の影響が時間差で顕在化。絶滅の進行

様々な社会課題の深刻化

今後25年で

- ・生産人口が **2/3** に
- ・集落の **2** 割が消滅
- ・あらゆるシナリオで国家財政破綻

低所得層の人口割合が10年で **+5%**

母子家庭の **60%** が年収200万以下

若年層の非正規雇用割合は20年で **2** 倍

・2度以上の温暖化は避けられない

・豪雨、土砂災害が **1.3** 倍に増加

・超積乱雲の発生は今後 **2** 倍に

・うつ病患者は過去20年で **2** 倍に

・自殺者数は現在年間3万人、

20代の死因の **50%** (倍増)

豊かで安全な人の暮らし

農作物

工業

観光

教育・福祉
医療・文化

防災

サービス

昆虫の
送粉

水

風土・
植生

生き物との
ふれあい

洪水の
制御

自然からの恵み

生きもののにぎわいとつながり
「生物多様性」

社会課題解決の鍵としての生物多様性

- 様々な自然の恵み（大半が気づかれてもいない）
- それぞれの地域に固有な歴史的産物
- 活かし方次第で、地域の重要な固有資源になる



チャンスと言えそうな変化



価値ある自然

生態系と生物多様性の経済学：TEEBの紹介

The Economics of Ecosystems & Biodiversity

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？

経営における「アート」のサイエンス

エグゼクティブは美術館に集う

「脳力」を覚醒する美術鑑賞

奥村高明 Takashi Okumura

光村図書

チャンスと言えそうな社会変化

- 新たな世界目標「SDGs」の認知度向上
 - 「だれひとり取り残さない」というコンセプト
 - 「自然は社会活動や経済活動の下支え」という構造
- 「環境教育ができる職業」が増えた
 - ビジターセンター、自然ガイド、動植物園、公園管理者・・・
- あふれるモノと情報、価値観と生活の多様化
- SNSなどで交流がしやすくなった
 - 団体に属さなくてもよいという人が増えた
- 個人として活躍しやすくなった
 - 複業・フリーランスの増加

「自然の価値」を伝える
活動はますます
価値が高まりそう！

次の10年、私たちに求められそうなことは

- 人口減少。ボランティアの一定限界
- 自然体験の機会減少。格差の拡大？
- 情報社会。価値観・生活の多様化
- 身近な自然の喪失

→社会の多様な場面に自然体験の入り口を

→興味や境遇によらず、すべての人に

→週末ボランティアだけでなく、日常や
仕事でのアクションも大事

→自然の恵みを実感できる（&自然も守られる）
新たな機会創出を

求められる「アクション」は？

社会に変革をもたらすために・・・

- ①今まで続けてきたアクションを、
より活発に・効果的に！
- ②まだ出来ていない（けど考えてきた）
アクションに新たに着手！
- ③今までになかったような発想・
パートナーシップによるアクションを！

全国大会のプログラム

1日目午前：シンポジウム

- ・次の10年の「鍵」になりそうな、活動事例の講演



1日目午後：新たな10年計画案

- ・日本自然保護協会が検討している計画案の共有



1日目午後：分科会

- アクションのヒントになるような事例共有と意見交換



2日目：アクションプラン作り&指導員パーティー

- ・未来をかなえる「アクションプラン」を皆でつくる

講演者 紹介

- 『だれ一人とりのこさない』を旨とした自然観察会
 - 佐野由輝（自然観察ちば、イクメンクラブ、NACS-J講師）
- 「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト」による自然の恵み実感の場づくり
 - 水元勇（大阪自然環境保全協会）
- 様々な機会に自然観察を活かすことの大切さとその心得
 - 一寸木肇（大井町おおい自然園、NACS-J講師）
- 日本自然保護協会の次の10年の自然観察指導員養成
 - 高川晋一
 - 秋山幸也（相模原市立博物館、さがみはら緑の風、NACS-J講師）

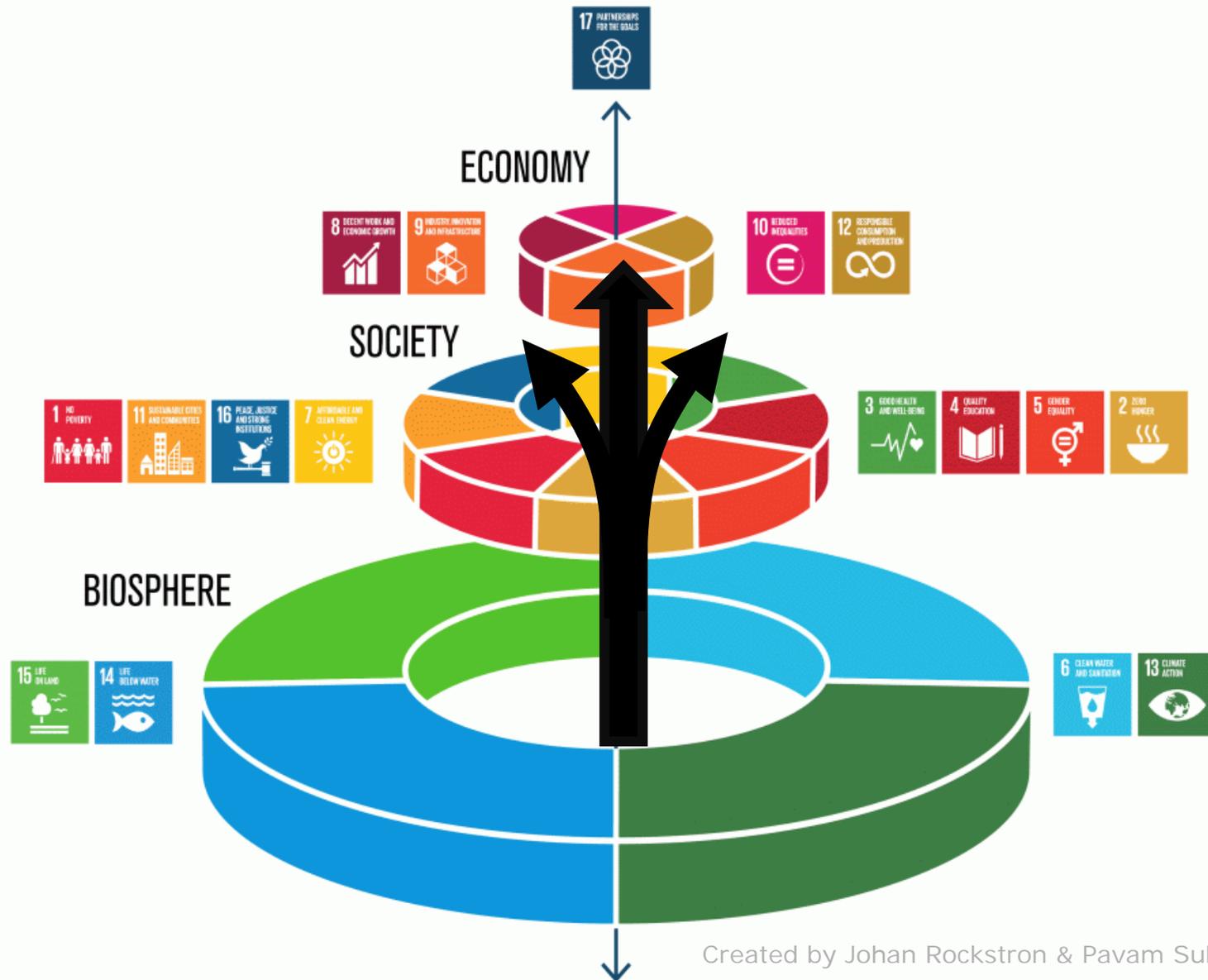
持続可能な開発目標 (SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です</p>

「SDGsのソリューション」としての自然保護



Created by Johan Rockstron & Pavam Sukhdev